

令和3年2月 全国百貨店売上高概況

令和3年3月23日

I. 概況

1. 売上高総額	3, 223億円余
2. 前年同月比	-10.7% (店舗数調整後/17か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	73社 196店 (令和3年1月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,038,154㎡ (前年同月比:-3.6%)
5. 総従業員数	58,967人 (前年同月比:-6.0%)
6. 3か月移動平均値	7-9月 -25.6%、8-10月 -20.5%、9-11月 -17.8%、 (店舗数調整後) 10-12月 -10.8%、11-1月 -18.6%、12-2月 -18.0%

[参考] 令和2年2月の売上高増減率は-12.2% (店舗数調整後)

【特徴】

2月の売上高は10.7%減と前月(29.7%減)より減少幅が縮小し、回復の兆しは出てきたものの、コロナ禍の影響がなかった前々年(平成31年2月)対比では21.9%減と、依然厳しい状況が続いている。「緊急事態宣言」延長による対象地区店舗・テナントでの時短営業や、主要顧客である高齢層の外出自粛に加え、前年閏年による営業日数減なども響いた。

顧客別では、国内富裕層を中心に高額消費が活発で、ラグジュアリーブランドや時計・宝飾品等が高伸している他、巣ごもり需要やECも引き続き好調で、国内市場は9.1%減(4か月連続/シェア98.7%)と持ち直してきた。一方、インバウンドは入国規制で60.7%減(13か月連続/シェア1.3%)、コロナの影響がない前々年比では86.4%減と低水準のまま推移している。

地区別では、地方は9.0%減(10都市以外の地区/4か月連続)、大都市でも11.4%減(10都市/17か月連続)と、その差は2.4ポイントまで縮小した。

商品別では、株高を背景に、高級時計等を含む美術・宝飾・貴金属は増勢で、前年比(8.9%増/2か月ぶり)、前々年比(1.5%増)ともにプラスとなった。化粧品は、インバウンドの影響で前年割れしているが、国内顧客の需要増から一部に改善傾向も見られる。また、イエナカニーズを反映し、調理家電、特選食器関連などが動いた家庭用品(0.2%増/4か月ぶり)は、前年実績を確保した。衣料品はビジネス関連を中心に苦戦が続くが、一部軽衣料は健闘している。

バレンタイン商戦は、店頭では混雑回避を目的に、ブランドの絞り込みや入場制限など制約の多い展開となったが、オンライン販売強化によるEC売上の高伸がカバーし堅調に推移した。中でも、各社が実施した「自家需要」「巣ごもり消費」向け施策などが好評だった。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「2月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇気温は全国的に高く、東・西日本でかなり高かった。降水量は、北日本日本海側でかなり多かった。高気圧に覆われやすく、寒気の影響を受けにくかったため、日照時間は、東日本太平洋側、西日本日本海側で記録的に多かった。

(2) 営業日数増減 27.7日(前年同月比 -1.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(" -1日/土曜1日減)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比/有効回答数109店舗)

①増加した：5店、②変化なし：12店、③減少した：92店

(5) 2月歳時記(節分、バレンタインデー)の売上(同上/有効回答数83店舗)

①増加した：8店、②変化なし：19店、③減少した：56店

全国百貨店 売上高速報 2021年2月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	322,332,378	100.0	-10.7 (-12.0)
10都市	226,888,533	70.4	-11.4 (-11.6)
札幌	8,443,203	2.6	-9.5
仙台	4,529,474	1.4	-13.9
東京	87,802,603	27.2	-13.5
横浜	20,492,259	6.4	-9.8
名古屋	20,839,248	6.5	-13.9
京都	12,771,961	4.0	-9.9
大阪	45,892,274	14.2	-8.0
神戸	8,061,952	2.5	-3.0 (-11.4)
広島	6,664,579	2.1	-9.9
福岡	11,390,980	3.5	-13.1
10都市以外の地区	95,443,845	29.6	-9.0 (-12.8)
北海道	846,387	0.3	-9.9
東北	4,681,087	1.5	-8.0 (-12.9)
関東	42,893,168	13.3	-7.2 (-9.8)
中部	7,242,390	2.2	-8.8 (-21.7)
近畿	14,101,240	4.4	-5.6 (-9.7)
中国	7,664,094	2.4	-7.6
四国	4,315,427	1.3	-18.0 (-29.9)
九州	13,700,052	4.3	-15.4

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	322,332,378	100.0	-10.7 (-12.0)
紳士服・洋品	15,546,120	4.8	-22.3 (-23.5)
婦人服・洋品	53,352,735	16.6	-10.4 (-11.9)
子供服・洋品	7,037,601	2.2	-7.7 (-8.9)
その他衣料品	5,667,205	1.8	-11.4 (-13.2)
衣 料 品	81,603,661	25.3	-12.8 (-14.2)
身のまわり品	41,194,275	12.8	-7.2 (-8.7)
化粧品	25,450,199	7.9	-21.8 (-22.7)
美術・宝飾・貴金属	26,297,791	8.2	8.9 (7.5)
その他雑貨	11,710,582	3.6	-5.2 (-6.5)
雑 貨	63,458,572	19.7	-8.1 (-9.2)
家 具	3,518,547	1.1	-8.1 (-9.9)
家 電	1,389,440	0.4	17.7 (17.6)
その他家庭用品	9,122,172	2.8	1.5 (-1.0)
家 庭 用 品	14,030,159	4.4	0.2 (-1.9)
生 鮮 食 品	16,725,284	5.2	-6.8 (-7.9)
菓 子	37,592,006	11.7	-16.4 (-17.8)
惣 菜	20,533,929	6.4	-8.7 (-9.9)
その他食料品	27,684,033	8.6	-9.5 (-10.9)
食 料 品	102,535,252	31.8	-11.6 (-12.9)
食 堂 喫 茶	6,197,940	1.9	-31.0 (-31.7)
サ ー ビ ス	3,500,347	1.1	-21.8 (-22.7)
そ の 他	9,812,172	3.0	-5.5 (-5.7)
商 品 券	4,992,188	1.5	-11.9 (-12.7)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | | |
|------------------|--------|---------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -11.4% | (店舗数調整後/17か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -9.0% | (店舗数調整後/4か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-11.4	-8.1	17か月連続マイナス
札幌	-9.5	-0.2	13か月連続マイナス
仙台	-13.9	-0.2	4か月連続マイナス
東京	-13.5	-3.8	17か月連続マイナス
横浜	-9.8	-0.6	4か月連続マイナス
名古屋	-13.9	-0.9	4か月連続マイナス
京都	-9.9	-0.4	17か月連続マイナス
大阪	-8.0	-1.1	17か月連続マイナス
神戸	-3.0	-0.1	4か月連続マイナス
広島	-9.9	-0.2	13か月連続マイナス
福岡	-13.1	-0.5	17か月連続マイナス
10都市以外の地区	-9.0	-2.6	4か月連続マイナス
北海道	-9.9	-0.0	13か月連続マイナス*
東北	-8.0	-0.1	13か月連続マイナス*
関東	-7.2	-0.9	4か月連続マイナス
中部	-8.8	-0.2	4か月連続マイナス
近畿	-5.6	-0.2	4か月連続マイナス
中国	-7.6	-0.2	4か月連続マイナス*
四国	-18.0	-0.3	17か月連続マイナス
九州	-15.4	-0.7	17か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、衣料品、食料品が17か月連続、身のまわり品、雑貨が4か月連続マイナスとなったが、家庭用品が4か月ぶりにプラスとなった。その他の品目は、家電が3か月連続、美術・宝飾・貴金属が2か月ぶり、その他家庭用品が4か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-10.7	-	17か月連続マイナス
紳士服・洋品	-22.3	-1.2	17か月連続マイナス
婦人服・洋品	-10.4	-1.7	17か月連続マイナス
子供服・洋品	-7.7	-0.2	4か月連続マイナス
その他衣料品	-11.4	-0.2	4か月連続マイナス
衣料品	-12.8	-3.3	17か月連続マイナス
身のまわり品	-7.2	-0.9	4か月連続マイナス
化粧品	-21.8	-2.0	13か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	8.9	0.6	2か月ぶりプラス*
その他雑貨	-5.2	-0.2	4か月連続マイナス*
雑貨	-8.1	-1.5	4か月連続マイナス
家具	-8.1	-0.1	4か月連続マイナス
家電	17.7	0.1	3か月連続プラス
その他家庭用品	1.5	0.0	4か月ぶりプラス
家庭用品	0.2	0.0	4か月ぶりプラス
生鮮食品	-6.8	-0.3	28か月連続マイナス*
菓子	-16.4	-2.0	13か月連続マイナス*
惣菜	-8.7	-0.5	17か月連続マイナス*
その他食料品	-9.5	-0.8	17か月連続マイナス*
食料品	-11.6	-3.7	17か月連続マイナス
食堂喫茶	-31.0	-0.8	17か月連続マイナス
サービス	-21.8	-0.3	12か月連続マイナス
その他	-5.5	-0.2	4か月連続マイナス
商品券	-11.9	-0.2	120か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>